

「一般外科医のための 手術合併症管理の実際」

Complications of Surgery in General

John A. R. Smith

防衛医科大学校教授・外科学	玉 熊 正 悦	監訳
香川医科大学講師・救急医療部	白 川 洋 一	訳
防衛医科大学校講師・外科学	望 月 英 隆	
東京大学医学部・外科学	跡 見 裕	
防衛医科大学校教授・外科学	玉 熊 正 悦	

福島医科大学教授

元 木 良 一

本書はイギリスで出版された「Complication of Surgery in General」の翻訳で、ショックや術後合併症の権威である防衛大学校外科の玉熊正悦教授が監訳されている。約200頁の手頃な本である。

言うまでもなく外科医にとって術後合併症ほど心の痛むものはない。長時間かけた手術が水泡に帰すばかりでなく、ときには手術が患者の死を早める結果を招くことさえ起こりうる。したがって外科医を志す者は手術を習得すると共に術後合併症についても十分学んでおかなければならない。すなわち、術後に発生する合併症についての症状、診断、予

防、治療など外科研修医が知っておきたいことや経験しておきたいことは多いのである。

しかしながら合併症はそう頻繁に発生するものではない。経験を積んだ外科医は合併症の予防に細心の注意を払っているし、たとえ発生してもいち早く発見して大事に至る前に対処してしまう。したがって、研修者は少なくとも重篤な合併症患者を経験する機会は少ないはずである。本書はこのようなギャップを解消する目的で企画されたのであるが、必要なことを必要なだけ記述することに徹した本と言える。

まず第1章手術創の合併症では、

創の哆開、瘢痕ヘルニア、ケロイド瘻孔、術後疼痛と次々と問題が展開され、最後に今後の問題点が箇条書きで記されてしめくられている。

経験豊富な著者が初心者にもわかるようにと問題点を整理し、実に適切、簡潔に解説している。図が多いのは理解に便利だし、活字の大きさや見出しに工夫のあとがみられ、訳者の心配りが感じられる。

次いでテーマは感染から血栓、出血へと進み、循環、呼吸、泌尿、消化管と各臓器系ごとの合併症へと進み、栄養から高齢者、小児と進んでいく。

巻末には訳文中での薬剤の名称と、本邦で市販されているその薬剤の商品名が対比されていて、すぐにも実地応用ができるように配慮されている。

外科の門を叩いたばかりの研修生にとってはもちろん、患者管理の中心となっている中堅外科医、更には指導的立場にあるスタッフの方にも、それぞれの立場で興味をそそられ、また教えられるところの多い本と思われる。

B5判 230頁 5,300円 送料300円
1987年

医学書院 刊